

食と健康の探求で、未来を創る

長野県立大学大学院 健康栄養科学研究科 Graduate School of Health and Nutrition Sciences

Q&A

健康栄養科学研究科に寄せられる、よくある質問をご紹介します。
詳細は本研究科Webサイトをご覧ください。

Q.1

受験を希望する人は
どのような方が多いですか？
管理栄養士でなければダメですか？

A.1 管理栄養士である必要はありません。健康や栄養、食に関連する分野で学びたい方が対象です。例えば、体育学部や保健学部卒で健康づくりに興味がある、経営学部卒で健康や食の分野でマーケティングと関連する研究をしたい、地域行政を学んでいるが地域の健康課題解決のためのマネジメントを学びたい方など、門戸は広く開かれています。

Q.2

大学を卒業していないのですが、
受験することはできますか？

A.2 短期大学卒や専門学校卒の方も個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた場合には受験が可能です(22歳以上の方に限ります)。また、大学を卒業していなくても、独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された方、海外において学校教育における16年の課程を修了した方、文部科学大臣に指定された専修学校の専門課程(修業年限4年以上)を修了された方なども受験が認められています。

Q.3

社会人入学者へはどのような配慮が
なされていますか？

A.3 長期履修制度のほか、社会人でも学びやすいように、履修しやすい時間帯・曜日での授業開講、集中講義、Zoomなどの環境を整えています。



三輪キャンパス

JR 長野駅善光寺口乗り換え長野電鉄(乗車時間6分)「本郷」駅下車(徒歩10分)
JR 長野駅善光寺口6番バスのりば長電バス(乗車時間15~20分)「城山団地」下車(徒歩5分)

GUIDE BOOK
2027



「栄養管理」を超える時代へ 地域発で研究成果を世界に発信

今日、健康栄養分野を取り巻く環境は複雑化し、医療、行政、企業、教育それぞれの現場ではこれまでの「栄養管理」的枠組みを超えた高度専門性が必要とされています。

健康栄養科学研究科では、「地域からグローバルへ」という大学の教育理念に則り、長寿県「信州」をフィールドに地域の健康課題を研究テーマとして昇華させ、普遍化した研究成果を全国そして海外に発信していく役割を目指しています。

栄養学に加え、疫学、運動、心理・行動科学、情報・データ、政策等、広範な分野に接続できる学際性は本研究科の強みです。我が大学院での学びはエビデンスに基づく分析力・提案力を高め、皆様のキャリアアップの助けになると確信します。



公立大学法人長野県立大学 理事長 佐藤 慎次郎

＜プロフィール＞

テルモ株式会社において、経営企画室長、心臓血管カンパニープレジデントを歴任。代表取締役社長CEO就任後は成長事業の業績拡大をけん引するとともにグループ経営の強化に努め、同社のグローバル展開を加速させた。テルモ株式会社 前代表取締役社長CEO/日本電気株式会社 社外取締役。

食と健康の複雑な課題に挑む 健康栄養の専門性を支える

長野県立大学では、健康発達学部食健康学科において管理栄養士の育成に向け体系的なプログラムの下で丁寧な教育を行い、高い成果を上げてきています。少子高齢化が進む現代社会において多様化・複雑化を増している食と健康の課題の解決には、より高度な専門性が求められます。

健康栄養科学研究科では、健康栄養分野に関する多様かつ高度な専門知識と科学的根拠[エビデンス]に基づいた判断を可能にする分析手法を体系的に学ぶ機会を提供し、健康や栄養・食に関わる諸課題の解決に積極的に取り組む専門人材の育成を目指しています。

健康栄養分野における専門性を生かして、持続可能な社会の実現に寄与したいと考える多くの方の参加を待っています。



長野県立大学 学長 三隅 隆司

＜プロフィール＞

一橋大学において商学部助教授、教授を経て商学研究科長、教育研究開発センター長、学長補佐(教育改革)、副学長を歴任。ミシガン大学客員研究員を務め、公立大学法人長野県立大学理事を経て、2026年4月より現職。専門は金融システム論・行動ファイナンス。

研究科長メッセージ

「健康栄養科学」を通じて、 社会課題の解決を目指します

我が国は、コロナ禍の影響もあり少子高齢化がこれまでの予測を上回る速度で進行しています。また、経済は長期にわたり低迷し、社会の先行きに不透明感が増えています。一方で、科学技術の領域では、生成AIや量子コンピューターをはじめとするICT技術が急速に発展し、社会の構造そのものを大きく変えつつあります。

このように社会環境が大きく揺れ動く中で、地域の健康と生活を支える実践領域は、今まさに転換期を迎えています。健康栄養科学研究科は、栄養学にとどまらず、多様な専門職がともに学び合うことで、複雑化する地域課題に応える新たな視点と協働の力を育む場です。異なる背景をもつ学生や教員が相互に交流しあい、互いの専門性を尊重しながら学びを深めることで、広い視野と実践力を備えた職業人として成長することを目指します。

地域の未来を支える実践知と学術的探究を結びつけ、新しい「健康栄養科学」の姿をともに創造していきましょう。



健康栄養科学研究科長 新井武志 教授

＜プロフィール＞

筑波大学体育専門学群卒業、北里大学大学院医療系研究科博士課程修了(博士(医学))。専門分野は、応用健康科学、介護予防・フレイル予防、地域包括ケアほか。著書「ライフステージ栄養学(共著)」ほか。

大学院で養成する人材像

01

健康栄養分野の科学に精通した高度な専門知識と技能を有する人材

02

健康・栄養行政、地域の健康づくりに貢献できるリーダーとなる人材

03

地域の食品関連産業、地方創生に貢献できるリーダーとなる人材

04

科学的根拠に基づいた研究成果を国内外の学術集会などを通して情報発信できる人材

3つの方針

アドミッション・ポリシー

入学者受入れの方針

AP1

健康栄養分野に関する管理栄養士と同等の基礎的な知識と技能をもち、さらに当該分野における、より高度な知識や技能を伸ばしたいという意欲をもっている

AP2

健康栄養分野で、公平かつ自律的に持続可能な社会の実現に向けて、積極的に地域の健康・栄養問題や食品関連産業などにおける課題に取り組もうとする精神をもっている

AP3

地方から国内、さらに世界に向けて情報発信できるリーダーとして活躍したいという向上心をもっている

カリキュラム・ポリシー

教育課程編成・実施の方針

CP1

研究倫理と科学的視野を涵養するうえで基盤となる知識と技能を身につける教育研究を行う

CP2

健康栄養分野を学ぶうえで多角的に理解するための専門的な知識と技能を身につける教育研究を行う

CP3

健康栄養分野に関する応用科学として、個人や集団、地域社会での応用・実践に関わる領域について教育研究を行う

CP4

健康栄養分野に関する基礎科学として、健康と食品にかかわる領域について教育研究を行う

CP5

科学的根拠に基づいた研究成果を、国内外の学術集会などにおいて広く発信ができる力を身につける教育研究を行う

ディプロマ・ポリシー

学位授与の方針

DP1

健康栄養分野に関する高度かつ専門的な知識と技能

DP2

地域の健康・栄養問題について、自ら課題を発見・設定し、その課題を解決する能力

DP3

地域の食品関連産業や地方創生において、自ら課題を発見・設定し、その課題を解決する能力

DP4

科学的根拠に基づいた研究成果を、国内、さらに世界に向けて発信する能力

研究科の特徴

FEATURES OF THE GRADUATE PROGRAM



社会と研究をつなぐ4つの柱

Point 1

科学的根拠に基づき
健康長寿社会を牽引できる

**健康栄養分野における
高度専門人材の養成**

健康栄養分野の科学に精通し、高度専門知識と技能を備え、倫理観を基盤に社会課題へ科学的に取り組める人材を養成します。仮説を構築し、実験・実証結果を論理的に検証できる力を基盤科目で研究法・解析・評価として身につけ、専門科目で高度な専門性と実践力を深化させます。

Point 3

「健康栄養科学＋データサイエンス」の修得、
医療・福祉などとの連携による健康寿命の延伸、

地域の健康づくりへの貢献

地域の健康栄養課題をアセスメントから抽出し、目標設定の上で施策・事業を企画(Plan)・実践(Do)・評価(Check)し、改善(Act)や政策提言につなげるPDCA実践力を備えた人材を養成します。専門科目(基礎健康栄養科学分野、応用健康栄養科学分野など)やインターンシップ、特別研究を通じて科学的根拠に基づいた健康づくりを推進できる力を身につけ、多様な研究テーマに取り組める土台を固めます。

2027年4月開設予定:栄養教諭専修免許状に係る教職課程(申請中)
※ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

修士論文テーマ一覧

2023 年度修了者	長野県の野菜および食塩摂取量に着目した地域差とその関連要因の検討
2024 年度修了者	中学校における食育の推進に関する研究－教員の食に関する指導に焦点をあてて－
	群馬県における循環器疾患死亡率と生活習慣との関連～社会経済的要因の観点からの検討～
2025 年度修了者	ダウン症者と保護者を対象とした身体活動促進プログラムの企画と介入
	思春期・青年期の競技者の栄養教育のスクリーニング票の開発

Point 2

長期履修制度、履修しやすい時間帯の
授業開講、ICT技術を活用したeラーニングなど、

**社会人も学びやすい
環境の整備**

社会人学生の在職就学を想定し、授業は平日夜間と土曜日を中心に編成します。受講はインターネット環境の整った自宅や職場等から、Zoomによる同時・双方向のリアルタイム形式を基本とし、一部科目の授業においては、対面形式とオンライン形式を組み合わせで実施しています。

Point 4

正指導教員・副指導教員による
複数体制での修士論文指導による

研究成果の発信

大学院の知を社会へ還元するために、科学的根拠に基づく研究成果を論理的かつ説得力をもって発信し、専門職からの質疑や査読にも適切に回答できるコミュニケーション力を備えた人材を養成します。また、健康栄養に関わる国内外の学会等での発表を通じ、議論する力を磨いていきます。

講義紹介

**栄養と健康の
データサイエンス演習
I・II／実装科学**

現代ではAIの急速な進化とともにデータサイエンスの必要性が日増しに高まっています。健康栄養科学研究科では、データサイエンスを必修科目としています。統計解析ソフトを活用し、演習形式で、データを適切に扱い、解析し、結果を解釈する技術を身につけます。さらに、結果を効果的に「見える化」してエビデンスを発信していく技術も学びます。

さらに、エビデンスは発信するだけでなく、社会実装していくことも求められています。そのための学問領域として近年注目されているのが実装科学です。本研究科では、共通基盤科目として実装科学が配置されているのが大きな特徴です。対話型の講義形式で、実装科学の概念や枠組みを時間をかけて輪読・議論し、実装の方法論を学びます。

講義紹介

**基礎健康栄養科学
演習**

知識と実践のつながりを理解するために、基礎健康栄養科学分野の専門科目を担当する教員が、オムニバス形式で実施する授業です。関連文献の検討に加えて、研究に必要な基本的手技や考え方を実験を通して学び、プレゼンテーションも取り入れながら、当該分野における実践力を養います。

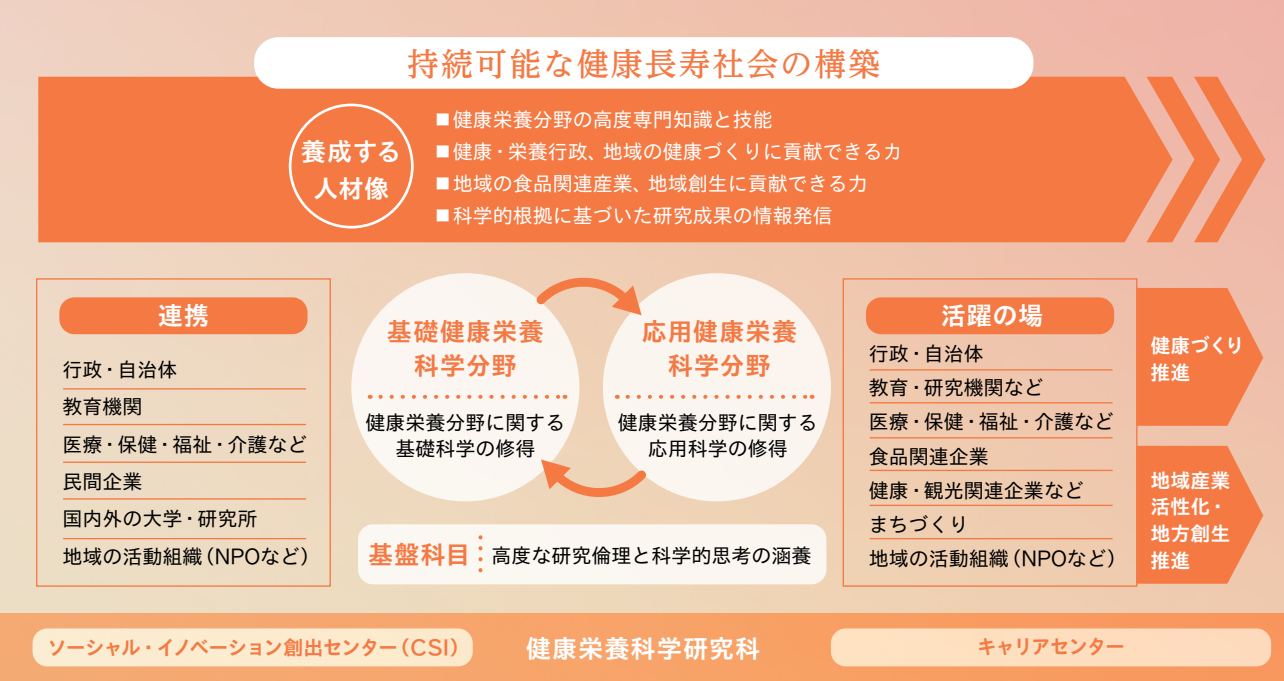
また、健康・栄養・食をキーワードに科学的側面から研究を遂行する上で必要な基本的な考え方や、実験に関する基礎手技、解析方法などを幅広く経験し学ぶことで視野を広げ、多様な課題に対応できるスキルを養います。

	幼児と保護者の朝食での野菜摂取頻度の関連とその背景要因の検討
	術前患者におけるサルコペニア肥満の有病率とその特徴
2025 年度修了者	ジャガイモ未利用部の安全性評価と食品ロス削減に向けた活用方法の検討
	生協組合員の災害の備えに向けた参加型プロジェクトの企画と評価
	実装科学に基づく長野県における市町村の地域包括ケア構築支援事業の評価

研究科と社会との関わり

健康栄養分野から社会に貢献する

日本が抱える健康課題は複雑で多岐にわたるため、地域社会の健康栄養課題を解決し健康づくりを牽引できる人材、新たな商品やサービスからの地方創生ができる人材の養成が必要です。関連する諸機関との連携を促進し、多様な場で、科学的根拠に基づく成果を社会に還元し、持続可能な健康長寿社会の構築に貢献することを目指します。



科目一覧

健康栄養科学研究科では、1つの概念にとらわれることなく、科学的視野と多角的視野を備えた健康栄養分野におけるリーダーとなる人材の養成を目指しています。「基盤科目」と「専門科目」の2つの基本的枠組みにより体系的に知識と技能を身につけられるような科目構成としており、その上で、「専門科目」に基礎健康栄養科学と応用健康栄養科学の2つの研究分野を配し、より専門性の高い高度な知識と技能を身につけることを可能としています。入学時に選択した研究分野以外の科目も履修し、多角的に学ぶことを望みます。

基盤科目	専門科目				
	専門共通科目	基礎健康 栄養科学分野	応用健康 栄養科学分野	学外連携科目	特別研究
研究倫理と研究法	健康・栄養政策	栄養科学特論	栄養マネジメント 特論	インターンシップA： 健康づくり実践実習	健康栄養科学 特別研究Ⅰ
実装科学	地域健康づくり 活動論	健康栄養科学特論	医療栄養学特論	インターンシップB： クリニカル・ニュートリ ション実習	健康栄養科学 特別研究Ⅱ
栄養と健康の データサイエンス 演習Ⅰ	ヘルス・コミュニ ケーション特論	健康医学特論	国際栄養学特論	インターンシップC： 地域産業連携実習	
栄養と健康の データサイエンス 演習Ⅱ	食文化特論	食品開発・製造特論	栄養教育特論	インターンシップD： 海外フィールドワーク 実習	
	健康発達心理学 特論	食品科学特論	フードマネジメント 特論		
	子どもの健康発達 心理学特論	基礎健康栄養科学 演習	応用健康栄養科学 演習		

COMMUNITY ENGAGEMENT

授業 授業の実施方法

長野県立大学は4学期制で、1コマ100分とし、1科目14回授業があります。健康栄養科学研究科では、授業は原則、
①平日の夜間（オンライン）
②土曜日の集中講義（対面）で行われます。
履修学生の状況に応じて、科目担当の教員と相談しながら、柔軟に実施していきます。実験・実習、特別研究等、本学の施設・設備は、夜間および土曜日も使用できます（担当教員の指導監督下で実施することを前提としています）。



授業 対面＋オンラインのハイブリッド授業

対面授業のほか、多様なメディアを活用して授業をすすめていきます。
●Zoomを活用したリアルタイムかつ双方向の授業
●対面・Zoomを組み合わせたハイブリッド形式の授業



施設 施設利用（図書館）

平日は8:30～20:00、土曜日は8:30～17:00まで開館しています（日曜日・祝日は休館）。貸出資料は、開館時間外でも館外の返却ボックスに返却できます。
図書館は、個人研究ブースやグループ学習室も備え、学外からもアクセスできる電子ジャーナルや電子書籍等も整備されています。必要とする資料が本学図書館で未所蔵の場合は、他大学から現物図書や論文の取り寄せも可能です。



施設 施設利用（その他）

キャンパス内には、健康栄養科学研究科に在籍している方が自由に使用できるワークスペース「健康栄養科学研究科 大学院生室」を設置しており、研究活動に必要な機材や資料を持ち込むことが可能です。研究に打ち込むためのプライベートスペース確保が難しい、社会人学生の方には特に喜ばれています。また、統計解析ソフトSPSSも在学学生は無償で利用可能です。



教員紹介

FACULTY MEMBERS

指導教員【基礎健康栄養科学分野】



【専門分野】
人体病理学、実験病理学

【研究テーマ】
各種疾患モデルにおいて細胞内外で働くシグナル分子の動態とその制御メカニズム

専門分野である病理学は、疾病の原因や発生メカニズム、治療手段の探索とその効果などの解明を目指す学問です。炎症や虚血などの疾患モデルにおいて細胞内外で働くシグナル分子の動態とその制御メカニズムを研究しています。

大学院は、ただ知識を深めるだけでなく、自ら問いを立て、答えを探索する力を育む場です。研究に真摯に向き合い、社会に新たな価値を生み出したいという志を持つ皆さんのご参加を期待しています。



【専門分野】
生命科学、脂質生化学、食品科学

【研究テーマ】
脂質代謝の調節機構の解明と摂食障害の病態理解・予防啓発

脂質は「悪いもの」というイメージが定着していますが、私たちの活動のエネルギー源であることに加え、免疫・内分泌、神経伝達などさまざまな身体の働きを調節しています。身体の中で、脂質がどのように変化しているか(代謝)についての理解は、生活習慣病の病態理解に欠かせません。現在は、妊娠期の多価不飽和脂肪酸の働きや、過剰なコレステロール摂取に伴う代謝の変化を研究しています。また、若年者に多い摂食症の予防啓発にも取り組んでいます。講義では、脂質代謝の観点から摂食症の病態も解説します。



【専門分野】
農芸化学、食品科学、生活科学

【研究テーマ】
地域の未利用資源を対象に分析・加工を通じた有効活用方法

食品の二次機能、すなわち「おいしさ」(味・匂い・色・食感)を重視し、地域の未利用資源の有効活用と高付加価値化を研究しています。日本の地域資源は独自の魅力を持ちつつ、未開発のポテンシャルを秘めています。本研究室では、特に長野県特産の未利用・少利用食品(ジビエ、ソルガム、果物、野菜、ハーブ、昆虫など)を中心に高圧酵素処理加工などを駆使し、これらを「おいしさ」を軸とした安全な新素材へ転換します。皆さん、本大学院で一緒に地域活性化と食品イノベーションを追求しませんか？



【専門分野】
食文化研究、調理科学、生活科学

【研究テーマ】
生活文化も含めて長野県を中心に日本の食文化の特徴やその形成や変容について明らかにすること

研究テーマの1つ目は、長野県を中心とした日本の食生活文化の特徴や形成や変容について明らかにすることで、近代以降を対象に文献調査、アンケート調査、聞き取り調査と現地の方と一緒に調理・加工実習や実験を行っています。2つ目は、地域食文化の継承のための実態と課題を明らかにすることで、日本国内外の学校給食の調査や、食文化継承の活動の調査を行っています。大学院生の皆さんとは、研究テーマに関して食文化をふまえた調査研究ができるよう、ともに学びながら進めていきたいと思っています。

指導教員【応用健康栄養科学分野】



【専門分野】
体育学、リハビリテーション学、応用健康科学など

【研究テーマ】
介護予防・フレイル予防、転倒予防、地域包括ケア、高齢者の自立支援など

主に、地域在住高齢者を対象に、介護予防やフレイル予防、転倒予防について研究しています。地域の健康課題は、生活環境や経済状況、社会とのつながりなど、多様な因子が影響しているといわれています。したがって、「運動する」、「栄養をしっかりと摂る」といった単独の活動を支援するだけでは十分ではありません。アセスメントに基づいて、多職種が連携・協働した包括的な支援、かつ、できるだけ住民が主体となって取り組む「地域での健康づくり」が推進されています。地域創生を目指して、ともに学びましょう。



【専門分野】
公衆衛生学、社会疫学、地域保健、実装科学

【研究テーマ】
地域や職域における社会環境(特にコミュニティ)に着目した、健康・栄養に関する課題発見と解決手法(政策を含む)の開発・評価

つながりの「ちから」(ソーシャル・キャピタル)に着目した、健康なまちづくりに取り組んでいます。これまで長野県をはじめ全国各地において、行政や地域の健康づくりリーダーとともに、地域の方が健康にいきいきと過ごすための活動やその評価を実施してきました。特に、新しい学問分野である実装科学の研究・教育・実践に力を入れており、実装研究にチャレンジする大学院生も増えてきました。より良い地域社会をつくるために、ともに学び、ともに新たな学問を切り拓いていきたい方、お待ちしております！



【専門分野】
公衆栄養学、国際栄養学、健康科学

【研究テーマ】
栄養ハイレスク者の栄養評価と食支援

アジア、アフリカの国をフィールドに、子どもや母親を対象とした栄養改善のための調査・介入研究を行ってきました。JICA 海外協力隊の一員として、病院栄養管理に携わったことが活動の原点です。現在は国内外を問わず、地域住民、患者など、多様な人々を対象とした研究を展開しています。応用分野では現場がもつリサーチクエストから研究計画を立て、実践・評価して次のアクションにつなげます。大学院ではその成果を根拠ある情報として発信し続け、健康格差の縮小や健康寿命の延伸に貢献します。

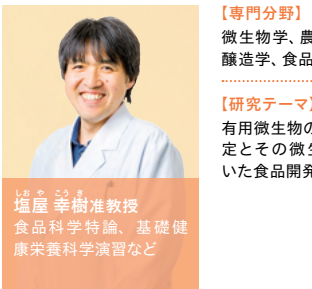


【専門分野】
栄養教育、行動科学、健康科学

【研究テーマ】
ライフステージに応じた食行動の変容や食環境づくりに関する研究

主に、質問紙調査やインタビュー調査を用いて、成人を対象とした研究を行っています。量的な研究に加えて質的な研究にも取り組んでいます。現在は、ICTを用いた特定保健指導のメリットやデメリット、そして質の高い効果的な保健指導を実施するための工夫について検討しています。実践の現場で活躍されている皆さんの経験や疑問の中には、研究につながる「タネ」がたくさんあります。皆さんと議論を重ねながら、そのタネをともに育て、社会に役立つ研究を進めていきたいです。

科目担当【基礎健康栄養科学分野】



【専門分野】
微生物学、農芸化学、醸造学、食品科学

【研究テーマ】
有用微生物の分離・同定とその微生物を用いた食品開発



【専門分野】
臨床栄養学、基礎栄養学、臨床分子栄養学

【研究テーマ】
腸管上皮における栄養素輸送担体の調節機構の解明と疾病の予防や治療に向けた基礎検討



【専門分野】
給食経営管理、健康科学

【研究テーマ】
健康増進に寄与する食事の提案およびヒト介入試験による食品成分の効果評価



【専門分野】
発達心理学、教育心理学、こども学

【研究テーマ】
子どもや子どもの支援に関わる人物が健康的に生活するための支援方法



【専門分野】
臨床栄養学、チーム医療

【研究テーマ】
がん化学療法における栄養療法・食事支援



【専門分野】
行動科学、健康科学

【研究テーマ】
子どもや養育者に対する健康な食生活のための栄養教育の検討

在学生・修了生インタビュー

STUDENT INTERVIEWS

在学生

行政栄養士に活かせる 栄養学とデータ活用力を磨きたい

就職で地元に戻ることを決意し、市役所に勤務しています。今後は行政栄養士として働きたいと考え、栄養学を深めるだけでなく、地域の実態や実際のデータを活用するために必要な知識や技術、栄養指導への実践的な介入や関係者との連携方法を学ぶために、健康栄養科学研究科への入学を決めました。

現場経験が少ない中でも、自分なりに課題を見つけ研究を計画していけるよう、論文の内容や結果を解釈する力をつけることを目指しています。ゼミの抄読会では論文を批判的に読むことの難しさを実感しています。研究に向けての情報収集や知識の取得はもちろん、講義やゼミを通して自分の考えを整理し先輩や先生方とも意見を交わらせるようにしたいです。

INTERVIEW 1

依田彩花さん
2025年4月入学
都内の大学で管理栄養士養成課程を卒業後、地元である長野県に戻り市役所に入庁。現在は行政職として、保育に関わる課に勤務。

学際的な議論を通して 現場に生きる知見を生み出す

精神障害者の人権擁護に関する研究を行ってきました。これまで一人ひとりに寄り添う個別支援に重点を置いてきましたが、集団全体の特徴を捉えて再現性のある解決策を導き出す集団アプローチを体系的に学ぶため、入学を決めました。また、栄養学への関心も動機の一つです。

健康栄養科学研究科の魅力は、多様な経験を持つ先輩や同期と交流できることです。研究は自身の専門領域を深めるだけでなく、学際的な議論も欠かせません。人の健康は多くの要因から複雑に影響を受けており、現場で活用できる知見を生み出すには、様々な立場の人との議論が必要です。また、講義担当の教員や指導教員も熱心に関わってください、刺激にあふれた環境です。

INTERVIEW 2

山岸昌平さん
2025年4月入学
大学卒業後、看護師・保健師として病院や行政機関で勤務。現場での支援の質を高めたいと考え、大学院へ進学し臨床心理士・公認心理師を取得。現在は大学で看護師を志す学生への教育に従事。

働きながら続けた研究が学会で評価され 自信を持つことにつながった

—入学の経緯を教えてください。

県職員として保健所で地域の健康づくり・食育を担当しています。母校の長野県短期大学が4年制の県立大学になり、2022年に大学院も新設されると聞き、業務で抱く疑問を学問として深め、仕事に生かしたいと入学しました。

—働きながらどのように学びましたか？

平日夜間オンライン＋月1～2回土曜対面の授業で、時間設定も社会人に合わせて柔軟に対応いただきました。2年目は手厚い指導と仲間の支えで研究を継続できました。研究成果を信州公衆衛生学会で発表し、奨励賞を受賞したことで、私でも研究ができると手応えを得ました。

—大学院での学びは仕事に生きていますか？

修士研究やデータサイエンスなどの学びを通して得た、仮説検証の組み立てや解析スキル、データの「伝え方」は、地域の実情に沿う施策立案や栄養調査業務など、県行政の業務にも大いに生かされています。また実装科学や演習科目で学んだ、実効性ある業務推進に向けたチームづくりも大切にしています。

INTERVIEW 3

市川 舞さん
健康栄養科学研究科(修士)
2023年度修了(2022年度入学)

研究科概要

OVERVIEW

研究科名	専攻	課程	学位の種類	修業年限	修了要件 単位数	入学定員
健康栄養 科学研究科	健康栄養 科学専攻	修士 課程	修士 (健康栄養科学)	2年※	30単位	5人

※社会人大学院生は長期履修制度を使って最大4年の修業が可能

入学から修了までの特別研究指導スケジュール

健康栄養科学研究科では正指導教員・副指導教員による研究指導体制を整えています。現場で抱えている悩みや卒業研究で抱いた疑問から、「リサーチクエスト」を立て、解決法を考え、実践し検証します。その成果を学会発表や論文投稿にて学外にも情報発信します。最終的に修士論文にまとめて発表し、学位を取得するまでを支援します。

1年次		2年次	
4月	研究分野及び指導教員の決定	7月	修士論文中間発表会
5月～	研究テーマの検討／研究計画の検討	～12月	学外の学術集会等での発表
10月～	研究計画の立案／研究計画書の作成	1・2月	修士論文提出／最終試験・公開発表会／修士論文最終提出
12月～	研究計画書の提出／倫理審査		

※長期履修制度を活用する場合は、3年または4年間で修了するスケジュールになります。

学費・入試について

夏季入試

試験日 2026年8月23日(日)

冬季入試

試験日 2027年2月7日(日)

学費

入学科 282,000 円
授業料(年額) 535,800 円

※その他、保険料、教科書代、実習費等が必要になります。

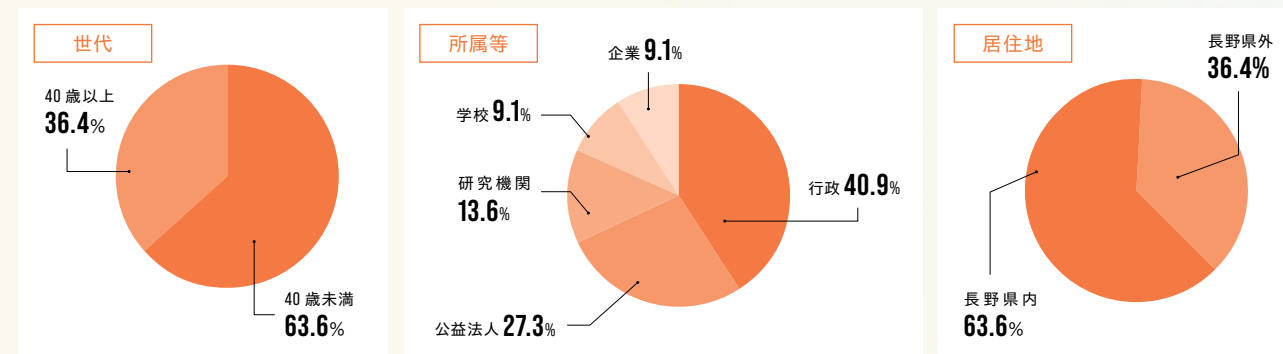
入試の概要

英語、健康栄養分野における専門科目の筆記試験(合計2科目)および面接により実施します。
※入試の詳細は2027年度学生募集要項をご確認ください。

募集人員

5人

学生データ



多様な仲間が集まり 探求と議論が深まる場

所属組織・年齢・居住地、バックグラウンドが多様な学生が集まります。対面・オンラインを併用し、日々議論を深めています。

修了生の進路 ▶ 社会から期待される活躍

修了生は、健康栄養分野の高度な専門知識と技能を備え、急速に変化し続ける現代社会において、健康・栄養行政、地域の健康づくり、あるいは地域の食品関連産業活性化、地域創生に貢献しています。活躍の場は、行政・自治体、教育・研究機関、医療・保健・福祉・介護分野、食品関連企業、健康・観光関連企業、まちづくり分野、地域の活動組織(NPOなど)に広がっています。